

各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

鮭川村



「清流」と「きのこ」と心のふる里

鮭川村の青少年育成活動

鮭川村青少年育成活動は、4月の第1回青少年育成推進員会で計画をつくります。その中で、いろいろな意見が出され、「今年度は、指導を目的としたことだけでなく、青少年と一緒に何か活動しよう」ということでボランティアサークルの活動に積極的に参加する計画を立てました。

その活動の一回目は8月23日、幹線道路のゴミ拾いを行ないました。村内のボランティアサークルのヤングサーモンズ、SAKEKKOのメンバーと一緒に夏の日差しが厳しい中、2か所、約2kmのゴミを拾いました。学校生活や部活動のこと等を話しながら、和やかな中、ゴミを拾い、青少年育成推進員と青少年とのコミュニケーションが図られた活動となりました。



村のボランティアサークルでは除雪ボランティア等の計画もありますので、青少年育成推進員と一緒に活動し、相互のコミュニケーションを図り、健全育成の一環として継続して行なっています。

大蔵村

むら美しく・人いきいき
キラリおくら

たくましい心を育んだ自然体験！

小学生自然体験事業「おくら葉山塾」を実施してから、今年度で17年目を迎えました。この事業は、大蔵村の豊かな自然と誇れる歴史を、村の達人と称される方々から学び、体験活動を通して子ども達の「生きる力」を育むことをねらいとしています。村では、「おくら葉山塾」を青少年健全育成事業の柱に位置づけ、今年度は、青少年健全育成推進員をスタッフに、肘折温泉の祓川・銅山川の合流地点で、2泊3日（7月25日～27日）の日程で行いました。参加対象者は、小学校5年生以上の児童で、14人が参加しました。テント設営や、キャンプファイヤーで踊るダンスなどを練習する事前学習会を行い、本番に臨みました。

日頃、恵まれた生活環境にある子ども達は、自然の厳しさに戸惑いながらも仲間と協力しあって活動するとともに、自然の恵みに触れるなど、貴重な体験を積み重ねることができました。この「おくら葉山塾」を今後も大蔵村の青少年健全育成の重要事業に位置付け、次年度以降も是非実施していこうと確認しました。



最上町



歴史と温泉と緑の町

青少年海外研修事業について

青少年海外研修事業で8月4日から11日にかけて、5名の高校生がスイスを訪問しました。本事業は、海外において直に異文化に触れ、国際的な視野を養ってもらうとともに、郷土の魅力を再認識し、ふるさとに誇りを持つことを主たる目的としています。

都市部であるルチェルン、牧歌的な風景が広がるランゲンブルク、当町で導入している木質バイオマスボイラーの製造元であるシュミット社（エシュリコン村）等を訪問しました。エシュリコン村長よりエネルギー政策や福祉の状況などを伺い、シュミット社にてボイラーの製造工程等を学びました。このほか、現地の方からスイスについて教えてもらう一方で、持参した最上早生のそばを振る舞い、食べ方を教えたりもしました。

高校生たちは「スイスは絵本のようにきれいだった」「みな優しく温かった」「環境先進国であると実感した」と感想を述べていました。スイスでの学びから、最上町の発展可能性を提案し、「町を自分たちが変えていきたい」と意気込みも述べました。また、現地の方と身振り手振りを交えて会話をすることで自信をつける一方で、「もっと英語力を伸ばし、自分の感謝の気持ちを相手に伝えたり、自分の世界を広げたい」と今後の抱負も述べました。5名それぞれが現地から多くのことを学び、自分と町に自信と誇りを持つことができた研修事業であったと思います。



戸沢村

豊かな自然に四季のかわりと
舟唄のこだまする村

通学合宿で“自立力”アップ

戸沢流「通学合宿」は、平成14年度に始まり、2泊3日から4泊5日の日程で村内12の集落公民館にて今年度も開催されました。

主催は青少年育成推進員、地区会、婦人会役員など地域の方々を中心となって組織する各地区実行委員会で、「（大人は）口は出しても、手は出さない」「合宿中、親は我が子と会わない」を約束ごとにして、大人は子ども達の自立力を育むために、自活を見守ることになります。

子ども達は、通学合宿に先立って期間中の献立を決め、共同生活のルール（食事当番の割り当て、テレビ・ゲーム禁止など）を確認しながら臨むこととなります。期間中は、食材の買出しから食事づくり、後片付けを分担して行なった後、一般家庭での“もらい湯”に行き、帰ると勉強、就寝となり、翌朝は各自で身支度を整え学校へと向かいます。

短期間ですが、このように親や大人の力を借りず、頼らずに自分の力、協同活動、地域の支えにより子ども達の成長、自発性を促すことが「通学合宿」の目的です。

したがって、1回のみ参加すれば良いというものではなく、毎年の積み重ねが大事であると考えます。通学合宿を経験した中学生や高校生もサポーターとなって関わってくれるなどの嬉しい成果も生まれています。

子どもが年々少なくなり、開催困難地域も出てきましたが、子ども達の健全育成に資することは全く変わっていません。

